

泌乳牛の栄養管理による暑熱対策

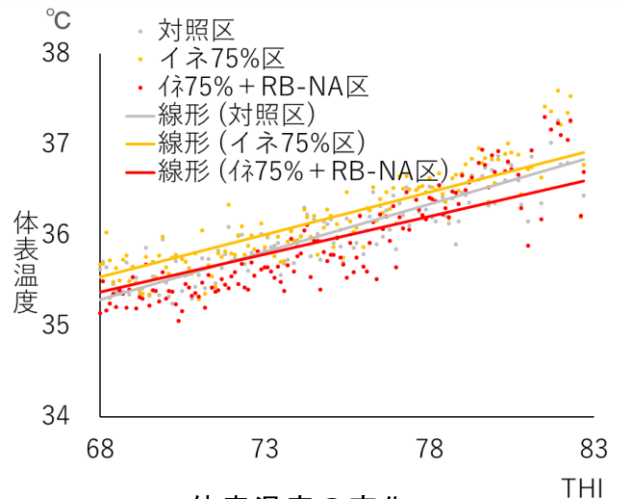
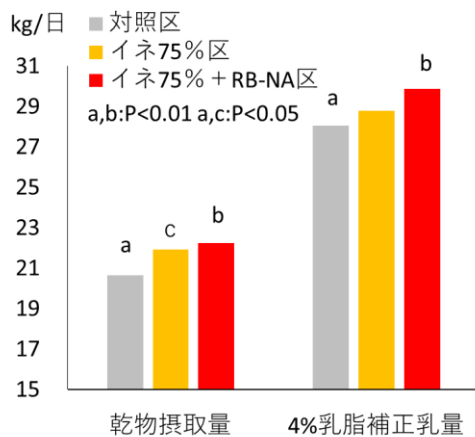
乳牛は飼育環境が気温25度以上になると暑熱ストレスを受け、採食量、泌乳量等の低下につながります。特に本県は全国でも有数の暑さの厳しい地域となっているため、比較的取り組みやすい栄養管理面からの暑熱対策について検討しました。

粗飼料給与量の75%をホールクロップサイレージ(WCS)用稲「つきすずか」に置き換え、バイパスナイアシン(RB-NA)の朝20g給与を組み合わせることで、暑熱対策の一助となる可能性が示唆されました。



微細断調製した WCS 用稲「つきすずか」
モミが少なく高糖分高消化性でビタミン E
が豊富

RB-NA ペレット
末梢血管拡張による体温上昇緩和効果



乾物摂取量および乳脂補正乳量
粗飼料をチモシー乾草のみとした対照区に比較し、チモシー乾草の75%を稲 WCS で置き換え、RB-NA の給与により乾物摂取量、乳脂補正乳量が高まり暑熱期の生産性が向上しました。

体表温度の変化
稲 WCS 給与により乾物摂取量が増加し体温は上がりますが、RB-NA を併給すると THI*80 程度までであれば、体表温度の上昇を緩和できました。
* THI : 温湿度指数